

執筆者紹介

張俊娜 Zhang Junna

大島 一二 Ōshima Kazutsugu

一九八六年生まれ。福建農林大学海峡鄉村建設学院助理研究員。

杜潔 Du Jie

一九五九年生まれ。桃山学院大学経済学部教授。中国農業論。『日系食品産業における中国内販戦略の転換』(共著)『中国社会の基層変化と日中関係の変容』(共著)『中国農業の市場化と農村合作社の展開』(共著)

一九八二年生まれ。西南大学中国鄉村建設学院助理研究員。

全志輝 Tong Zhui

原田忠直 Harata Tadanao

一九六三年生まれ。日本福祉大学経済学部准教授。中国経済。「現代中国における「包」と「発展のシエーマ」についての「考察」」「民工(男性)の「希望」とその実現性について」——浙江省H市における民工に対するアンケート調査結果を中心に」「柏史観と「包」の倫理規律」]

中国人民大学農業與農村發展学院副教授、中国人民大学国家發展與戰略研究院特聘研究員。政治学。『選挙事件與村庄政治』『農村民間組織與中国農村發展』『村委會選挙與鄉村政治』

嚴善平 Yan Shaping

温鉄軍 Wen Tiejun

一九五一年生まれ。中国人民大学教授。農村經濟。比較發展研究。『八次危機——中国的真实經驗(1949-2009)』『解説蘇南』『三農問題與制度變遷』

同志社大学大学院教授。中国経済。『中国農工の調査研究——上海市・珠江デルタにおける農工の就業・賃金・暮らし』『農村から都市へ——億三〇〇〇万人の農民大移動』『中国の人口移動と民工——マクロ・ミクロ・データに基づく計量分析』

孔祥智 Kong Xiangzhi

一九六三年生まれ。中国人民大学農業與農村發展学院二級教授。合作經濟。『中国農民專業合作社連行機制與社会効応研究』『土地流転與新型農業經營主体培育』『西部地区農戶稟賦對農業技術採納的影響分析』

高強 Gao Qiang

一九八二年生まれ。農業部農村經濟研究中心助理研究員。農業政策分析。「家庭農場的制度解析——特徵、發生機制與効応」『中国農業結構調整的總体估價與趨勢判斷』『「工資剪刀差」及外出農民的隱性貢獻研究』

鐘真 Zhong Zhen

一九八四年生まれ。中国人民大学農業與農村發展学院講師。農家經濟。「產業組織模式對農產品質量安全的影響——來自奶業的例証」『生産組織方式、市場交易類型與生鮮乳質量安全——基于全面質量安全觀的实证分析』『觀光農業經營策略及影響因素研究——以京郊農業經營戶應對成本上昇為視角』

安玉発 An Yūta

一九五五年生まれ。中国農業大学教授。農業経済。『農産品流通文集』『供応鏈主体食品安全控制行為與政府監管研究』『果蔬農産品協議流通模式研究』

苑志佳 Yuan Zhijia

一九五九年生まれ。立正大学経済学部教授。中国経済、アジア経済。『中国企業対外直接投資のフロンティア―後発国型多国籍企業―の対アジア進出と展開』『ASEANにおける中国多国籍企業の産業競争力の比較分析―自動車と電機産業を中心に―』『現代中国企業変革の担い手―多様化する企業制度とその焦点』

樋泉克夫 Hizunni Katsuo

一九四七年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。華僑・華人論・京劇史。「相次ぐ欧州勢の参加表明―見直し迫られる対中政策」「漢民族支配の本質と弊害」「北米にまで広がる鉄道網を建設―「中国の夢」燃やす野心」

星野幸代 Hoshino Yukiyo

一九六八年生まれ。名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授。中国近現代文学、中国近現代舞踊史。『侯孝賢の詩と時間のプリズム』(共編)『台湾映画表象の現在―可視と不可視のあいだ』(共編)「日中戦争期上海で踊る―交錯する身体メディア・プロパガンダ」

橋本恭子 Hashimoto Kyoko

日本社会事業大学非常勤講師。比較文学、台湾文学。『華麗島文学志』とその時代―比較文学者島田謹二の台湾体験』『島田謹二―華麗島文學的體驗與解讀』『張文環〈閩雞〉中の小説語言與思想』

高橋五郎 Takahashi Goro

愛知大学現代中国学部教授。中国農業・食糧問題。『中国経済の構造転換と農業』『日中食品汚染』『中国社会の基層変化と日中関係の変容』(共著)

翻訳者紹介

高橋真理子 Takahashi Mariko

中国語翻訳。『幼学瓊物語』(翻訳)『鑑真渡海物語』(翻訳)『シルクロード開通物語』(翻訳)

小嶋祐輔 Koizumi Yusuke

翻訳業。

学会通信

◎学会員活動(二〇一五年七月―二〇一六年三月)
加治宏基『教養としてのジェンダーと平和』(風間孝・金敬熙との共編者、法律文化社、二〇一六年三月)

川村亜樹「白さを問う―オバマ大統領誕生後のシカゴ、クライボーン・パーク」(日本アメリカ演劇学会『アメリカ演劇』第二七号、二〇一五年三月)、「テクノロジーがもたらす未来の映画―塚田幸光編著『映画とテクノロジー』(書評、『日本映画学会会報』第四四号、二〇一五年九月)

黄英哲 「離散與跨境——論台湾作家的『抗戰』」(『戦争の歴史與記憶』台北：國史館、二〇一五年八月)、『何謂「戦後」——亜州的一九四五年及其之後』(共編、台北：允晨文化、二〇一五年一〇月)、『文学與翻譯——黄春明在日本』(國際学会論文発表表、台湾国立宜蘭大学主催「黄春明及其文学國際學術研討会」二〇一五年一〇月一六—一七日)

薛鳴 「日本中華学校的双語教育及其意義——以神戸中華同学校為例」(共著、『國際漢語教育』二〇一五第一輯(総第四四輯)、外語教育與研究出版社、二〇一五年八月)、『「複数形の接尾辞の機能と名詞のカテゴリ」(口頭発表表、「第四回中日韓言語文化比較研究国際シンポジウム」於延辺大学、二〇一五年八月一七—一九日)

唐燕霞 『中国模式』の特殊性と普遍性——勞使関係の視点から(共著、宇野重昭・江口伸吾・李曉東編著『中国式発展の独自性と普遍性——中国模式』の提起をめぐって) 國際書院、二〇一六年三月)、『台湾の「社区营造」と住民自治——中国の「社区自治」へのインプリケーション』(島根県立大学総合政策学会『総合政策論叢』第三一三号、二〇一六年二月)、『中国蘇南地域における農村の都市化の現状と課題』(研究会報告、愛知大学国際問題研究所主催プロ

ジェクト研究会、二〇一五年二月二〇日) 樋泉克夫 「動き始めた陸と海のシルクロード」『整備進む中国南部の陸上ルート』(『エコノミスト』二〇一五年二月三十一日号、毎日新聞社)、『東南アジアの部屋』(連載、『Foreigner』(電子版)新潮社)、『華人企業家の夢と野望』(連載、『Asia Market Review』重化学工業新聞社)

松岡正子 「四川羌族中的語言交替及母語喪失——中国南方少数民族所進行的「中華民族文化」(謝政論ほか編『何謂戦後——亜州的一九四五年及其之後』台北：允晨文化、二〇一五年一〇月)、『四川チベット族諸集団の研究』(愛知大学国際問題研究所紀要』第一四六号、二〇一五年一月)、『羌年の観光資源化をめぐるポリティクス——四川省阿壩藏族羌族自治州汶川県の直台村と阿爾村の羌年を事例として』(塚田誠之編『民族文化資源とポリティクス——中国南部地域の分析から』風響社、二〇一六年三月)

中国21 Vol.45 予告(16年8月刊予定)
特集●いまこそ、
「戦後」を問いなおす

去る二〇一五年には数多くの戦後論が提起されたが、それらはおしなべて第二次世界大戦の終結七〇周年というメモリアルを所与とするもので、「戦後」に依った戦後論である。この戦後に希求された「国際の平和及び安全」とは旧連合国にとつてのそれであり、以来七〇年間に国際関係を規定してきたのは、国連システムを中心とする戦後国際レジームである。ただし、戦後国際レジームが、国連加盟国の社会実態を合理的に規定することとはなかった。これは、旧連合国の中国から主権承継した中華人民共和国についても同様である。

他方で、旧連合国による戦後処理とは、構想中における自らの正当性を事後的に構成する手続きでもあった。その中核にあったのが「戦争犯罪」を再定義し旧枢軸国に適用した戦犯裁判である。さらに、一九四五年を核の時代の端緒とする視座も示唆に富む。本号では、冒頭に示した「常識」に疑問符を付すことを糸口に、「戦後」という時代区分を多角的視座から再定義しようと試みる。

編集後記——中国農業を語るとき、従来は「三農問題」とか「農村の都市化」とかという語句が常用語だった。中国の研究者の間ではこの点に変化がみられ、最近ではもっと前向きに、発展的な変化に、意識して視点を据えるような研究が散見されるようになった。しかしいわゆる二元経済や貧困問題が解消されたというわけではない。依然として、非自発的な格差や小農民経済の困窮さは否定すべくもない現実がある。◇本号で意図したのは、中国におけるそうした前向きの変化に着目し、今日、我われ日本人にも見え始めてきたそのたしかな変化の要諦を整理してみることだった。一例として注目されるのは、日本の農業政策が肝いりで進めている農業のいわゆる「六次産業化政策」についてならば、中国ではすでに二一世紀に入る以前から、「農業の産業化政策」として、企業による農業直営、食品加工、物流、流通サービス、輸出を誘導し、二〇年近い試行錯誤を経て、それを軌道に乗せている点だ。日本農業を超えた、と思わせる要諦の一つである。◇さまざま前向きの変化が進む過程では、権力作動、農業労働力、農地（地代、権利移動、集約等）、賃金、合作社、地域社会、家族関係などが伝統的堅牢と市場的再編とのあいだで揺れ動き、複雑な様相を呈してひと筋で整理しがたい面が多々生まれてくる。◇これらについては今後の取り組み課題としたいが、その一灯をささげてくれた本号の内外の執筆者の方々に深甚なる感謝を申し上げたい。（高橋五郎）

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度（400字詰原稿用紙換算）③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail : china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21編集委員会

〔編集長〕松岡正子 加治宏基 木島史雄 黄英哲 高橋五郎 樋泉克夫 三好章

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.44

特集 中国農業大転換

2016年3月25日発行

ISBN 978-4-497-21604-5 C3066

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	安部 悟
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861